

## 教育を学ぶ大学生×地域の小学生 ～学生と行うジオパーク教育の試み～

学生団体名 みんなで子どもジオパーク博士隊（金沢星稜大学人間科学部こども学科池上奨）  
 参加学生 森田真菜美 広島麻鈴 安達歩美 松浦真奈美 米林梨奈 樺山涼香 東泉水  
 山本雄一 直川歩未

### 1. 子どもジオパーク博士の地域活動の概要

私達、みんなで子どもジオパーク博士隊は、2015年から白山手取川ジオパーク推進協議会が主催する「子どもジオパーク博士」に参加し、企画運営を行っている。

「子どもジオパーク博士」とは、ジオパークの運営団体である白山手取川ジオパーク推進協議会が2012年から主催する小学4～6年生野外教育プログラムである。2日間白山市内を旅し、児童が楽しみながら自然と自分達の暮らしとの関わりについて学ぶ活動である。

### 2. 2017年度子どもジオパーク博士「ジオパーク博士になりたくない？」活動内容

【2017年度子どもジオパーク博士2日間の主な日程と活動概要】

1日目	活動場所	活動内容
	道の駅しらやまさん	参加者と学生スタッフの自己紹介。 白山手取川ジオパークの全体地図を見ながら、2日間の概要説明。 2日目のアート体験の為に個々の好みの石を拾う。
	にわか工房	蕎麦打ち体験から蕎麦が栽培されるようになった背景とそれに付随する地形的特徴を学ぶ。
	中宮展示館	学生による説明から「川の出来方」についてについて学ぶ。 白山に住む動植物が手取川流域の水と関連して成り立っている事を様々な展示物から学ぶ。
	蛇谷園地	川遊び。 生き物の観察。
	松任海浜公園	学生による説明から手取川の水の流れのゴールが海である事や、水が蒸発し白山周辺に雨や雪で戻る事を確認。また、砂にも注目。
2日目	百万貫の岩	紙芝居を見、洪水と百万貫の岩の関係を知る。 百万貫の岩観察。
	白山砂防科学館	館内見学で土石流について学ぶ。 百万貫の岩がどのように運ばれてきたのかを3Dシアターで映像鑑賞。
	白山恐竜パーク 白峰	学生による説明から化石壁の歴史を学ぶ。 自分達の住む地域で恐竜の時代の化石が発掘される事や、化石の種類やでき方について実物を見て学ぶ。 化石発掘調査体験。
	かわち保健センター	川で拾った石を使って、2日間の活動で思い出に残っている事を題材に流石アート体験。

		2日間の纏め。 子どもジオパーク博士認定証授与式。
--	--	------------------------------

企画には、子ども達が楽しみながら学べるように体験活動を多く取り入れた。

例えば、峡谷の説明として、なぜ蕎麦が栽培されるようになったのか、それに付随する蕎麦と水と地形の関係を学ぶ為に蕎麦打ち体験を行った。蕎麦打ち体験では同じ学校ではない子ども達同士のグループでも、「次は僕がやる」「私もやってみたい」などと言いながら活動する様子が見られた。作った蕎麦を食べ始めると「自分で作った蕎麦はおいしい」といった声も聞こえた。



写真1 蕎麦打ち体験

白山恐竜パーク白峰からは、白山市では恐竜の時代の化石が発掘される事や化石の種類や出来方について実物を見せながら説明した。化石発掘調査体験では、子ども達が一生懸命ハンマーで石を叩きながら化石を探す姿が見られた。又、自分が見つけた化石が何の化石だったのかを専門の調査員の方に聞くなどして積極的に学ぶ様子が見られた。

かわち保健センターでは、1日目に各自で拾った石を使って、アート体験を行った。水と石の繋がりをより印象付ける事や普段あまり意識しない大地に親しむ事を狙いとし、石と自分達との関わりや石の利用の一つとしてアート体験を取り入れた。アート体験活動を行う前に、石と自分達にどのような関わりがあるのかや、石と水の関係について伝えた。「2日間の旅の思い出」を題材に紙粘土とペンを使って造ってもらう事にした。子ども達が造りやすいように、2日間でどのような事をしたかをホワイトボードに書き出した。何を造って良いか分からない子どもには学生が話しかけながら一緒に製作に取り組んだ。学生が「何が思い出残っているかな？」と聞くと子ども達は「皆の笑顔」や「恐竜」などと答え、紙粘土をついたりペンで絵を描いたりしながらそれぞれ思い出に残った事を石で表現した。



写真2 化石発掘調査体験



写真3 流石アート体験

旅の最後は、2日間の振り返りや表彰式をした。賞状を受け取る子ども達には笑顔が見られた。活動終了後、参加児童32名全員からアンケートを依頼、回収した。

### 3. 地域活動の成果

回収したアンケートから、体験活動の印象度が高かった事が分かった。また、体験活動を企画したり、教育学を学んでいる年齢に近い大学生と接したりしたことで、児童らは楽しみながらジオパークや地域のつながりを学ぶことが出来た。

反省としては、今回のアンケートだけでは楽しみながら学ぶ様子は見られたが、果たして知識が定着しているかまでは検証できなかった。また、学生側の知識が足りなかった為、質問が来ても答えられないことがあった。今後の課題としては、学生の事前の調べや分かりやすい説明の工夫が考えられる。

### 4. 来年度の地域活動計画

来年度も引き続き「子どもジオパーク博士」の活動を続けていく。反省を踏まえながらより子ども達が楽しく学べるような企画を考える事や教育実践に努め、「互いに学びあう」教育プログラムとなるようにする。

### 5. 学生の感想

子ども達が自然と自分達との関わりについて楽しく学べる為にどんな企画にするのか、どのような工夫が必要か考えるのが難しかった。自分の中ではまとまっているつもりでもいざ子ども達を目の前に話そうとすると、何を伝えたいのか分からなくなってしまうこともあった。子ども達に分かり易く伝えるには自分が思っているよりも知識が必要であり、何を伝えたいのかをはっきりさせることが大切だと分かった。

企画段階では、子ども達がどんな反応を見せるか不安もあったが活動を楽しむ様子やメモを取りながら話を聞く様子が見られて良かった。今回の活動は、教職者になるに当たって貴重な経験になったと思う。

### 6. 地域活動に対する地域からの評価

「子どもジオパーク博士」の企画を共同で開催した白山手取川ジオパーク推進協議会からは、「白山市では月一回土曜日に「感性のびのびジオ・サタデー」という野外教育プログラムを行っていますが、「子どもジオパーク博士」は、学生の斬新なアイデアで企画された内容と学生たちの親しみやすさによって、子ども達は楽しく学ぶことが出来ているのではないかと考えます。」との好評をいただいた。また、今後この活動を続け自分達の学びの場としても活用してほしいと激励をいただいた。